

□議員名：河崎平男

1 森林整備計画について

論点	植林から木材利用について、本市の人工林が適木利用期になっているが、どのくらいあり、今後の計画はあるのか、
回答	市有林は、人工林面積125haのうち、55年生以上の森林が34ha近くに達しその利用が課題となっている。森林は木材の供給の他、水源涵養や国土保全などの機能を有しており、今後は必要な施策を継続的に実施していくことが重要と考えている。

論点	公共建築物等における木材の利用促進に関する法律で、公共建築物に木造化を図ることとなっているが、本市の計画はどうか。
回答	この法律は、国、地方公共団体が率先して木造化を図り、森林の適正な整備等に寄与することである。市としても法に規定する市町方針を県方針に倣い、今年度中に策定したいと考えており、公共建築物における木材の利用を促進する。

2 道の駅建設計画について

論点	総合計画にも、にぎわいと活力にみちたまちづくりを推進する施策として、道の駅建設構想があるがどのようになっているか。
回答	第一次山陽小野田市総合計画の観光交流の振興策として建設計画がある。今後の整備計画は、利用する側と運営する側のニーズに対するマッチングができ、財政状況を勘案したうえで、関係部署で前向きに検討する。

3 文化振興について

論点	本市が目指すまちづくりは、地域資源や人や自然、歴史文化などである。4月にできた文化振興ビジョンの進捗状況はどうか。
回答	このビジョンは、市の文化振興の理念や方向性を示したもので、推進に際しては全庁的な体制や取り組みを考えている。今後、文化振興プロジェクトをつくり、積極的な事業展開をしていくこととしている。

論点	本市は、独自の歴史文化が育まれてきた。まち中に有形、無形の文化財（資料）がたくさんあるが文化財の保護普及はどうするのか。
回答	本市には、貴重な文化財がたくさんあり、何もしなければ失われていくので、今後未指定文化財も含めて調査研究や保護普及、さらに活用についても計画的に推進していく必要があると考えている。

論点	文化財を後世に保存継承するのは市民に課せられた責務で、文化財保護行政を携わる担当は専門性が必要で専門職員の登用はどうか。
回答	この分野は、専門知識を持った専門職員の配置が望まれるのは言うまでもありません。人事配置は今後関係部署とも協議をしていきたいと考えている。また、総合的な施策の中で人材の登用や採用も考えたいと思っている。

4 公共施設再編計画と埴生小中の施設一体型小中連携校について

論点	埴生地域の将来都市構想（まちづくり）として公共施設再編計画はいかにあるべきか。
回答	提案した計画の素案では、地域の合意は得られない感触がありましたので、今後は計画の見直しや地元からの提案内容を検討したうえで、今後の施設整備のあり方を引き続き協議を進めていく。

論点	今後の核家族、少子化対策などへの対応として、教育効果のある埴生小中一体型小中連携校の今後のスケジュールはどうか。
回答	仮に提案がなされたら、その後、PTA、地元などと調整して滞りなく進めた場合、事業内容にもよりますが、基本実施設計に1年半、建設工事に1年半がかかると考えている。



資料 埴生人形浄瑠璃（芝居）に使用された首（かしら）